長洲町立長洲小学校　校長便り　№１３

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和４年６月３日(金)

因果応報という話

運動会も終わり、季節としては少しジメジメした季節に入ってきました。こんな時は、しっとりと読書なども良いかもしれません。私は毎日寝る前に１０分間読書をするのですが、その中で「因果応報」という言葉が目につきました。意味を再確認したところ、「過去および前世の行為の善悪に応じて現在の幸・不幸の果報があり、現在の行為に応じて未来の果報が生ずること。」とありました。自分の行ってきた言動が今の自分（人生）を作ってきたのだという意味に捉えました。確かにそうだと思います。私自身、これまで多くのうまくいかないことを経験してきました。最近に思うのですが、うまくいかないときに限ってその原因を自分以外のところに見出そうとしていました。責任の矛先が自分に向かない訳です。するとどういうことが起きるか？私の場合、普段の生活の中で愚痴や不平不満を頻繁に口にし、周りの人を不快にさせていました。それで事態が好転するはずがありません。挙句、学年主任の先生に叱られたことがありました。

私の経験では、不平不満や愚痴を続ける人達の負のスパイラルは永遠のループとして続き、最終的に仕事に潰り申斐を感じられず、疲弊してリタイヤしていきます。私自身がそのような時期を経験したからこそ、思うことです。責任や原因を自分に見出すことは年齢を重ねることに難しくなるものですが、今の時代、年齢に関係なく自分自身をアップデートしていかなければ社会の動きについていくことはできません。だからこそ、自分自身のパフォーマンスをしっかり振り返り、現状を生み出した原因は何なのかを、先ずは自分に照らして考えるべきではないかと感じています。

最近の社会⑤

いよいよ最終回です。

⑧「お陰様」の気持ちの低下

「全ては自分の力で成功した。」とか、いわゆる自信過剰な人や自惚れ屋さんは、窮地に追い込まれるととても弱いです。「実るほど頭を垂れる稲穂かな」という言葉がありますが、驕らず謙虚さを忘れない人は、困った時に周囲の人が助けてくれます。

⑨中途半端

最近の若者の中には、自分の仕事に対して誇りをもっていない人が少なくないと感じるのは、私だけでしょうか。また、そういった若者は何をするにしても中途半端な取り組みになっているのではと、気になって仕方ありません。私は教職という仕事が好きですし、「先生」と呼ばれることに対して誇りをもっています。そして私が教師として活動することの報酬として、大切な税金から給料を頂いています。いい加減なことはできません。若者の仕事に対する真摯な姿勢が感じられなくなってきた現代社会において、色々な事件が多くなっているような気がしてならないのですが…。

５回に分けて大変生意気なことを述べてまいりましたが、ここに挙げたことは私の個人的なものであって、私自身、今後の子育てによって、また、教職の経験によって少しずつ変わっていくものだと考えています。だからこそ、真剣に考えていかなければならないことであり、我々教師が色々な場面において話していかなければならないことだと感じています。そして、保護者と教師が共通理解のもとに活動することが、最大の教育効果を生むのだと確信しています。私も気持ちを引き締めて、頑張って参ります。

シリーズ「自分を語る」#13

５年生の時の出来事で印象深いものがもう一つあります。それは怪我です。学校の中で「かくれんぼ」をしていた時のことです。よく考えてみれば、怪我して当然のシチュエーションでした。「いらんこっし」だからバチが当たったのです。

ある日の昼休み、友達と一緒に「かくれんぼ」をしようということになり、その場所を考えていました。その日は雲り、今にも雨が降り始めそうで外に出るのは少々ためらわれました。そこでみんなの意見は当然のごとく校舎内ということまとまり、かくれんぼ開始。麻生田小学校は新設校でしたので、木造から鉄筋コンクリート製に替わり、多くの扉もアルミや鉄に替わっていました。校舎内でのかくれんぼですから、隠れる場所って大体決まっています。ルールとしてトイレに隠れるのはダメということになり、みんな扉の陰とかに隠れていました。私も同じように隠れるのですが、鬼に見つかりそうになるとまた別の場所へ移動していくという、今でいう「逃走中！」のようなかくれんぼでした。中々のスリルがあります。意識はすべて鬼の動きに集中です。体中にアドレナリンが充満している感じです。こんなことをやっていて何か起こらない訳がありません。

私は非常階段の鉄の扉の陰に隠れていました。当然のことながら鬼の動きを確認しつつの行動です。扉の窓から顔を上げれば見つかる可能性があり、私は誰かが扉を開ける度に蝶番（ちょうつがい：扉を開け閉めする時の扉を固定してある部分）の隙間から鬼の様子を見ていました。そして何度目かの扉の開閉の時、あまりに鬼に集中するあまり、自分の左手中指が蝶番の隙間、建物と扉の隙間に入ってしまっていました。私は当然それに気づいてはいません。その時、一緒に隠れていた友達が、鬼が近づいて来るのに気づき、扉を閉めてしまったのです。

「ミリッ…」　（たしかこんな音がしました。私のイメージです。）

指先に激痛が走り、私は「いたたたたたたたたた！」と、北斗の拳のケンシロウのように叫んでいました。周りの友達は何が起こっているのか分からず、状況確認に少し時間がかかったようです。扉の仕組みが分からなかった友達は、逆方向に扉を動かし、てこの原理で激痛は更に増すばかり。私は言葉を失いました。顔面蒼白で私は友達に「は、ん・た?いさに&う◆ご☆かと…」と声を絞りました。やっとのことで引き抜いた中指は、無残にも爪が縦に半分に曲がっていました。友達が急いで保健室に知らせに行ってくれましたが、担任の先生は「また澤田がやったか、やれやれ…」という具合。保健の先生が「これはレントゲンを撮っておいた方が良いね。」と仰って、私はそのまま保健の先生と病院へ直行です。（幸いにも骨折はしていませんでしたが、数日後爪が黒くなって剥がれてしまいました。）

学校では校舎内でかくれんぼをしていたメンバーはこっぴどく叱られていました。私もが人なのに誰からもいたわりの声はかけられず、静かに「自業自得」という言葉を視線としてぶつけられるのでありました。後日談として、当時の担任の先生と保健の先生は結婚されました。そして、同窓会の時には私を含めたところのかくれんぼのメンバーは担任の先生ご夫婦に頭が上がりません。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）